

第5学年 教科「おおたの未来づくり」学習指導案

日 時：令和7年2月5日（水）5校時

13:25～14:10

対 象： 第5学年1組 32名

指導者： 教諭 岡田 幸大

1 単元名「地域をよりよくするために私たちにできること」【B 地域の創生】（35時間扱い）

2 単元目標

多様化する生活環境において、地域が抱えている課題を把握・理解し、その解決策を考え、「日本生命」、「大田区防災危機管理課」などの授業パートナーからの指導助言を基に、発信する活動を通して相手意識をもって考える力や多面的・多角的な課題把握力、情報発信力を身に付けるとともに、地域社会の一員としての自覚を高め、よりよい未来を創造しようとする態度を養う。

3 単元の評価規準

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 地域の創生	コンセプト	① 交通事故や特殊詐欺がなくなるための解決策を構想することが「地域の創生」のコンセプトであることを理解し、必要な知識・技能を身に付けている。	⑤ コンセプトの理解に基づいて交通事故や特殊詐欺に関する地域の実態について情報を整理・分析し、解決策をグループで検討している。	⑨ 講話、調査等を通して必要な情報をすすんで収集し、相手意識をもって、協働的にコンセプト設定に取り組もうとしている。
	デザイン	② 地域の実態を把握し、必要な解決策を考え、地域に向けて発信するための、内容的・方法的な知識・技能を身に付けている。	⑥ コンセプトに合った解決策を授業パートナーに提案し、助言を基に地域に向けて発信するためにどんな修正が必要なのか考えている。	⑩ 収集した情報を基に、アイデアを出し合ってコンセプトに合った解決策を創造しようとしている。
	クリエイション	③ デザインした解決策を実際に創造し、分かりやすく発信するために必要な内容的・方法的な技能・知識を身に付けている。	⑦ デザインした解決策を実際に創造し、発信することで今回の解決策が地域の実態に合ったものなのか、効果があったのかグループで検討している。	⑪ 授業パートナーからの評価を基に、改善に粘り強く取り組んだり、活動を振り返って価値や改善点を見いだしたりしようとしている。
	ICTの活用	④ ICTを活用した情報収集・調査・スライド作成・プレゼン資料作成に関する知識・技能を身に付けている。	⑧ その発信方法が見やすく内容がしっかり伝わるものになっているのか相手意識の視点をもってICTを効果的に活用している。	⑫ モラルや相手意識をもって、他者との協働や振り返り、企画や取り組みの改善のために活用しようとしている。

4 単元について

(1) 単元設定の理由

今まで児童は総合的な学習の時間に、自校の実態に応じて、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や自校の特色に応じた課題、児童の興味・関心に基づいた課題に取り組んできた。

これから、多様化・複雑化する社会において、自分たちの考えをどう表現したり、他者の考えを受け止めたりするとよいのかを理解して実践する力を身に付けていることが必要と考える。「おおたの未来づくり」の実施を通して、児童の「未来を創り出す力」の育成を目指していく。

(2) 学習過程

「コンセプト」では、「日本生命」の方に来校いただき、交通事故の件数ならびに自転車事故防止のための取組、自転車保険の内容について講話を行っていただく。また、「大田区防災危機管理課」の方に来校いただき、大田区内の自転車盗難件数並びに特殊詐欺被害の現状について講話を行っていただく。その後、自分たちが暮らす大田区をより住みやすい街にしていくなために、自転車事故の件数や特殊詐欺被害の件数の減少につながる解決策について検討し、検討した解決策を発信することを理解する。2つの授業パートナーの方と連携しながら、コンセプト設定に必要な内容的、方法的な知識・技能を身に付けられるよう重点的に指導する。

「デザイン」「クリエイション」では、必要な情報を収集・整理・分析し、各々のアイデアを出し合って協働しながら解決策を検討していく。また、授業パートナーの方からの評価・助言を基にして、より「Well-being」につながるよう試行錯誤していく。この活動を通して、相手意識をもって考える力や多面的・多角的な課題把握力、アイデア発想力、試行錯誤しながら創造しようとする力を身に付けられるよう重点的に指導する。

(3) 本単元で扱う教科等の内容及び本単元に充てる授業時数

教科等名	本単元で補完する内容		授業時数
国語	書くこと	・ 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を、集めた材料を分類したり関連付けたりして、伝え合う内容を検討すること。	9
	話すこと 聞くこと	・ 言葉には相手とのつながりを作る働きがあることに気付くこと。	
社会	情報産業	・ 社会の情報化の進展に関心をもち、情報化した社会の様子と国民生活とのかかわりについて調査したり、資料を活用したりして調べ、情報化の進展が国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることについて考え、表現すること。	5
		・ 学習したことを基に情報化の進展に伴う国民生活におけるよさや課題について考えること。	

	工業	・工業生産について学習してきたことを総合して消費者や生産者などの立場から日本の工業の発展について考え、適切に表現すること。	
算数	データの活用	・目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断している。 ・複数のグラフから、割合や絶対量を読み取り、データの特徴や傾向について説明することができる。	4
体育	保健	・危険予測の活動と地域での交通事故防止の工夫の資料を通して、適切な判断と安全な行動、環境の整備について理解できるようにしていること。	2
総合	・地域の人、もの、ことの中から問いを見だし、その解決に向けて見通しをもって調べ、集めた情報を整理、分析し、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付けている。		15

5 児童の実態

これまでの「おおたの未来づくり」の学習活動を通して、児童は課題解決のための手だてとして、注意喚起を呼びかけるためのポスター・チラシ・動画の作成や青パトで呼びかけるための台本など、多岐にわたる方法を立案し、企業パートナーの方からの助言を取り入れながら活動を進めてきた。考えたことが実現可能なものか、より相手に伝わるためにはどうしたらよいかを企業パートナーの方に何度も質問するグループも多く、自分たちが考えたことを実現させるために意欲的に活動している児童が多い。一方で、自分の役割が分からず活動に参加できない児童も見られ、その都度グループの中で役割分担を行うこと、各自の得意とすることを生かせるような役割を割り振ることなどを声かけしてきた。日々の学習の中で話し合い活動に参加することが難しい児童も、今回の学習の中で活躍することができている場面も見られた。

6 研究主題・目指す児童像に迫るための手立て・工夫

＜目指す児童像：様々な人と豊かに関わり、自らの成長に生かせる児童＞

（１）児童の考えを尊重した学習計画

指導者側が活動内容や方法を示すのではなく、児童が発案したことを中心に学習計画を立ててきた。自分たちの考えを実現するための手だてやより広く考えを広めるための工夫について児童が主体的に話し合うためには、一人一人が目的意識をもつ必要がある。自分たちが設定した目的意識や相手意識を念頭に置きながら話し合いをすることで、話し合いの視点が明確になり多様な考えを出すことができた。児童から出てきた多様な考えを可能な限り実現するために、日程調整や企業パートナーとの連携を進めてきた。

（２）授業パートナーとの事前打合せ

「地域の創生」の学習内容を充実させるために以下の企業と連携をした。交渉を始めたのは7月上旬。1学期末の段階で年度末までの見通しを伝えた。その後2学期からは月一

回ペースで来校していただき、それぞれの授業パートナーからの講演会（9月実施）、地域の創生の課題に対するプレゼンテーション（10月学校公開時に実施）、成果物の作成に関する相談会（11月中旬実施）、成果物を授業パートナーに提出（11月末実施）、地域に発信した後の成果と課題の見直しなどを行った。そのため、打ち合わせについてはポータルサイトのチャット機能でデータのやり取りを行い、詳細な打ち合わせについては放課後授業パートナーに来校していただき、面談を行った。なお、ポータルサイトのチャットの通知が来ていないかについてはなるべく毎日確認するようにしていた。

① 日本生命

（打合せ）ポータルサイトのチャット機能 月6～10回 面談月1～2回 授業参画6回

② 大田区役所防災危機管理課

（打合せ）ポータルサイトのチャット機能 月10回 面談月1～2回 授業参画6回

※緊急で連絡を取りたい場合、電話でのやり取りも行った。

（3）ICT等の活用

10月に行われたプレゼンテーションの際には各グループ「Google スライド」を活用し、電子黒板に投影しながらプレゼンテーションを行った。成果物としてポスターやチラシを選択したグループは「ピクチャーキッズ」や「Adobe Express」を使用し、オリジナルのマークを考えたり、ポスターのデザインを作成したりした。また、動画での発信を選択したグループは「Adobe Express」を使用し、動画の編集を行った。

7 指導計画(全35時間)

学習過程	時	○主な学習活動 ★指導の手立て	◆評価規準【観点】（方法）
コンセプト	1・2	○自転車による交通事故や特殊詐欺が世の中からなくなならない要因について考え、自分の周りで見付けた危険箇所、ヒヤリハットについて話し合う。	◆【知】①（発言・ムーブノート） 【知】④（Google ドキュメント）
	3	○日本生命の社員の方から講話を聴く。自転車による交通事故の現状について知る。	◆【思】① （ワークシート）
	4	○防災危機管理担当の方から講話を聴く。特殊詐欺の現状を知る。	◆【主】② （ワークシート）
	5・6	○講話から気になった内容についてインターネットや資料を使って調べる。	◆【思】⑤ 【主】⑨ （ワークシート）
	7・8・9	○「世の中から交通事故や特殊詐欺がなくなる未来」に向けて、解決策を考え、文言を軸に計画を立てる。	◆【思】⑤（発言・ワークシート） ◆【思】⑧（Google スライド）
デザイン	10・11	○できた計画を授業パートナーに提案する。	◆【知】②【思】⑧ （Google スライド）
	12・13・14	○授業パートナーから受けた助言を基に、「どんな相手に伝えるか。」「どんな形式で伝えるのか。」について考え、計画案を修正する。	◆【知】②【思】⑥【主】⑩ （Google スライド）

	15・16	○修正した計画案を授業パートナーに再度提案する。	◆【思】⑥【思】⑧ (Google スライド)
	17・18・19	○提案した計画案を基に成果物を作成する。 ○統一したキャッチコピーを作成する。	◆【思】⑥ (Google スライド・Adobe)
	20	○成果物を授業パートナーに提出する。	
	21・22・23	○「世の中から交通事故や特殊詐欺がなくなる未来」に向けて外部に発信するための準備を進める。	◆【知】③【思】⑦ (Google スライド・Adobe)
クリエーション	24・25	○それぞれのグループの役割を確認し、外部への発信活動を行う。	◆【主】⑫ (発言・行動)
	26	○発信した経験を踏まえて「相手目線」という視点を中心に成果と課題をまとめる。	◆【思】⑦【主】⑫ (Google スライド)
	27	○それぞれのグループで生まれた成果と課題を全体で共有する。(本時)	◆【思】⑦ (Google スライド)
	28	○「世の中から交通事故や特殊詐欺がなくなる未来」の発信の対象を校内に変え、どんな発信がふさわしいのか検討する。	◆【主】⑪ (Adobe・Google スライド)
	29・30	○検討した方法を基に校内への発信に向けての準備を進める	◆【知】③【思】⑧ (Adobe・Google スライド)
	31・32	○校内への発信を行う。	◆【主】⑫ (Adobe・Google スライド)
	33	○校内の発信から見えた成果と課題をまとめる。	◆【主】⑫ (Google スライド)
	34・35	○「将来地域と関わっていくに向けて、自分たちには何ができるのか」という視点をもって全体の振り返りを行う。	◆【思】⑫ (Google ドキュメント)

8 本時の学習（全35時間中の第27時）

（1）本時のねらい

各グループの実践報告から、工夫やよいところに気付き、自分たちの考えを効果的に広めるための手だてを考えることができる。

（2）本時の展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆評価規準【観点】（方法） ・指導上の留意点
導 入	○本時の学習の見通しをもつ。 各グループの取組の振り返りをして、より広めるための方法を考えよう	・他のグループの取組から自分のグループでも生かせる工夫等に着目するように声をかける。
展 開	○同じテーマで活動したグループの友達と実践の報告会を行う。 ・実践方法をまとめたスライドを基に、グループで発表し合い、感想を伝え合う。 ○発表内容を基に、校内で広めるための方法を考える。 ・各グループの発表から、校内で広めるために効果的な方法や必要なことは何かを考え、伝え合う。	・各グループの工夫やよいところに着目している児童の考えを価値付ける。 ・相手意識をもって声かけの仕方や方法を考えている児童の考えを全体で共有する。 ◆【思】⑦ （発言・発表・スライド）
振 り 返 り	○本時の振り返りを行う。 ・発表を通して参考になったことや気付いたことを全体で共有する。	・次時からは校内で考えを広めるために活動していくことを伝える。